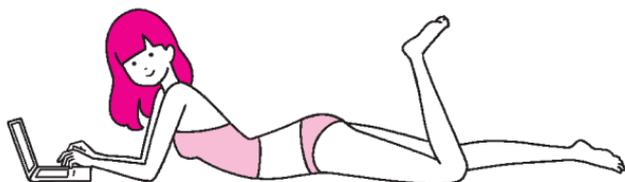


Prologue



なんで私たちは、文章を書くんでしょう？

「ただ書きたいから」

「自分の記憶にとどめたいから」

「伝達手段として」

文章で楽しんでもらいたいから。

誰かが

「そうそう！」

って言ってくれたらうれしい。

おおぜいの人たちが、

「わかる！」

って言ってくれたら、もっとうれしい。

その中に好きな人がいて、

その人が

「面白かった！」

って言ってくれたら、

飛び上がるほどうれしい。

……でも、それって簡単なことじゃない。

だって現実には、

フォロワーも少ないし、

特別なネタを持っているわけじゃないし、

人と違った専門知識があるわけでもないし。

だから、

自分の考えや発見を伝えても

自分の周囲の小さな世界にしか届かない。

そんなふうに思っているあなたに、
私から伝えたいことがあります。

いったん

「文章で的確に伝える」

という「技術的」な考えをわきに置いてみて……

そして

「文章で楽しんでもらう」

という「文芸的」な目線で書いてみませんか。

あなたの思いや発見を、

届けやすくするヒントが、

文芸の世界にはたくさん集まっています。

「自分の言葉の見せ方」

を工夫するだけで、

すこしずつ、

あなたの文章を読んでもくれる人が増えるはず。

そして、

文章を書くということが、

いま以上に楽しくなるはず。

書けば書くほど

もつと書きたくなってくる、

いままでになかった文章教室に、

あなたをご案内します。

この本で私は、あなたに「バズる文章の書き方」をお伝えするつもりです。

「バズる」というと、一般的には「(主にネットを中心に)爆発的に広まること」「たくさんの人に認知されること」という意味で使われますよね。

だから「バズらせる」というと、

「テクニックを駆使して、一時的に大きな拡散を狙う」

そんなイメージを持つてるんじゃないでしょうか。

でも、この本は「そういうことをするのが苦手」な人のためにあります。

この本の目的は、

1、(文章の終わりまで読もうかな) と思ってもらう。

2、(この人いいな) と思ってもらう。

3、(広めたいな) と思ってもらう。

そんな文章を書けるようになることです。

とはいえ、私の文章はプロ並みにうまいわけじゃありません。話の脱線、日本語の間違い、誤字脱字だって多い。持っている情報にもすごい価値があるわけでもない。

さらに打ち明けると、もともとSNSのフォロワーが多いわけでもなく、最新テクノロジーとかお金稼ぎとか、暮らしに有益な情報を持っているわけでもなく、かわいい猫を飼っていたり、気の利いたイラストが描けたりするわけでもありません。私がふだん書くのは、むしろ「小説の批評」という、あまりにもニッチな分野。読者はぜったい少ない！と思われる分野です。

でもそんな分野でも、何度も「バズる」ことがあったんです。

はじめは、書店でアルバイトをしていたときにブログに書いた「おすすめ本の紹介記事」がバズりました。アクセスが集中してサーバーが落ち、最終的に「はてなブックマーク」で年間2位になりました。それから、私の記事のアクセス数はちよつとずつ伸び続け、今ではベストセラー作家さんや、紅白に出るようなミュージシャン、有名女優さんといった、「言葉のプロフェッショナル」の方々が、私の記事を読んでくださるようになりました。

フォロワーも、特別有益な情報も持ち合わせていない私でも、インターネットで「バズる」ことがあるんです。

でも、うーん、なんでだろう？ はじめのうちは自分でも不思議でした。

だって私はぶっちゃけ「バズる」ことを狙ったわけじゃない。ていうか、「おすすめ本の紹介記事」が拡散されるなんて、そもそも期待すらしていない。だけど「バズった」。

このギャップが生まれているのはなぜか？ 出た結論はこれ。

「文章の内容や情報の価値について悩まずに、文章でみんなに楽しんでもらうことを優先していたから。そして読んでくれた人に「いいなあ、この文章」って好感を持ってもらおうと工夫していたから」なんじゃないかなって。

もちろん、バズることを目的として、バズらせる方法もあるでしょう。

いかにもバズりそうな、ちょっと過激なことを書くほうが、手っ取り早いと思われる方もいるかもしれませんが。一般的には、

〈フォロワー数を増やす〉〈影響力の高い人とつながる〉〈暮らしや仕事に役に立つ、レアな情報を伝える〉〈動物や子どものかわいいハプニングを、イラストや写真で伝える〉〈どこかに危険が迫っていることを知らせる〉〈政治やニュースや世の中の間違いを正す〉

などが、バズらせる法則としてよく知られています。

でも、そうやってもバズらせることができたとしても、中身をともなわなければ、一過性のもので終わりやすい。一時的なブームで終わらせないためには、「みんなに好きになってもらえる文章」を書けるようになることが、一番の近道だと私は思っています。

そもそも、私たちはなぜ文章を書くのでしょうか。

SNS、ブログ、メール、報告書、プレゼン資料、手紙、企画書、レポートなど、形式はさまざま。でも、すべてに共通するのは、自分の思いや考え、発見を知ってほしい。そして、できれば「面白いじゃん」って思ってもらいたい。

そのために、ユニークな体験をしたり、キャッチーなタイトルを考えたり、語彙を増やしたりするなど、日頃から努力している人もいるでしょう。

でも、私になによりも書き手に必要だと信じているのは、シンプルに「どうすれば読み手に楽しんでもらえるか？」という視点です。

だから、人気の作家さんをはじめ、アイドルからインフルエンサーの文章にいたるまで、私はおそらく日本中の誰よりも「読んで楽しい文章の法則」を研究してきました。

「読んで楽しい文章の法則」って、言ってしまうえば、今まで「文才」と呼ばれ、「あの人には文才がある」「私には文才がない」などと抽象的にとらえられてきたもの。

でもそれを、私は長年かけて、一つひとつがんばって「法則」として言語化してきました。それをまとめたのが、この本です。

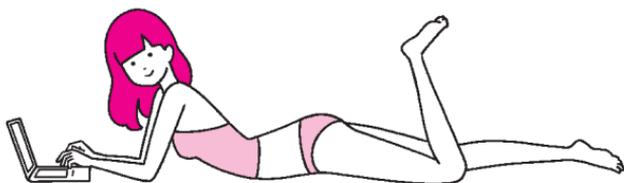
自分のことを、誰かにわかってもらいたい。知ってもらいたい。

多かれ少なかれ、きつと誰もがそう思っていますよね。

これからもっと、あなたが思っていること、知っていること、聞いてほしいことを「文章」にして、好きな人に、大切な人に、そしてまだ出会っていない誰かに、楽しんでもらいましょう。

Contents

目次



CONTENTS

CHAPTER

1

バズるつかみ

どうすれば、振り向いてくれる？

023

Prologue

はじめに

001

良心的
釣りモデル

しいたけの誘引力

最初に意味不明な言葉を放り込む。

024

未解決疑問
モデル

星野源の未熟力

問いを共有する。

029

質問一般化
モデル

佐々木俊尚の身近力

徐々に話の花を開かせる。

034

嵐の前
モデル

村田喜代子の展開力

日常から非日常に展開させる。

039

時制変更
モデル

森鷗外の寄添力

最初にしつこく「これは記憶だ」と伝える。

043

CHAPTER

2

対にして
みるモデル

北原白秋の配合力

ふたつのものを並べて始める。

049

炎上回避
モデル

山崎ナオコーラの冒険力

あらかじめ自分を関係者から外す。

053

バズる文体

どうすれば、心を開いてくれる？

059

5音9音ぶつ
切りモデル

村上春樹の音感力

読みたくなるリズムを使う。

060

曖昧共感
モデル

かっぴーの弱気力

曖昧さを残す。

067

会話割り
込みモデル

林真理子の強調力

カギカッコの中でお芝居をする。

072

名詞止め
モデル

綿矢りさの簡潔力

語尾をぶった切る。

078

CONTENTS

フィルター モデル	永麻里の代弁力 身近な人のエピソードを使う。	119
人柄調節 モデル	上橋菜穂子の親身力 読点でテンポを操る。	113
壁ドン モデル	橋本治の豹変力 突然、口語になる。	108
接続詞省略 モデル	恩田陸の快速力 つなぎ言葉を隠す。	102
硬質筆致 モデル	井上都の冷静力 感情を見せない。	097
仮名8割 モデル	向田邦子の柔和力 ひらがなで印象を変える。	090
過剰口語 モデル	三浦しをんの台詞力 口語をより口語らしくする。	083

CHAPTER

3

妄想上昇
モデル

秋元康の裏切り

オチでひっくりかえす。

150

バズる組み立て

どうすれば、楽しんでもらえる？

149

ヨガ文
モデル

紫原明子の息継力

段落で、呼吸を整える。

143

主観バリバリ
モデル

谷崎潤一郎の気分力

「どう感じているか」をくつつける。

137

対照的造語
モデル

三島由紀夫の対比力

でこぼこする言葉を使う。

132

映像記録
モデル

司馬遼太郎の撮影力

カメラだけで書く。

127

ゆっくり
語りモデル

開高健の実直力

思いを、不器用に、全部並べる。

123

CONTENTS

結末省略
モデル

江戸小噺の小粋力
あえて、みなまで言わない。

158

同意先行
モデル

高田明の視点力
「あるある」から話しはじめ。

162

倒叙ミステ
リーモデル

さくらももこの配慮力
オチを先に書いてしまう。

167

フォロー
先行モデル

こんまりの豪語力
アンチに対するフォローを入れておく。

174

主張進化
モデル

齋藤孝の更新力
言いたいことを、言い換える。

179

配役固定
モデル

上野千鶴子の一貫力
言いたいことのセンターを決める。

184

譲歩逆説
モデル

塩谷舞の先読力
今までの考えを、自分でくつがえす。

189

感情一般化
モデル

有川浩の共感力

「百人中百人の同意見」を挟む。

196

長調短調
モデル

藤崎彩織の旋律力

心の流れをスイッチする。

201

擬人化代弁
モデル

武田砂鉄の錬金力

向こうサイドに感情移入する。

208

重ね合わせ
モデル

山極寿一の置換力

特殊な経験を、一般的な経験とだぶらせる。

213

永世中立
モデル

岸政彦の中立力

綺麗事と現実を、交互に出す。

220

元さや
モデル

日本人の悲哀力

理想から現実に取り戻す。

225

段階的説明
モデル

瀧本哲史の要約力

徐々に連想させる。

230

CONTENTS

CHAPTER

4

バズる言葉選び

どうすれば、思い出してくれる？

片仮名強調
モデル

俵万智の合図力

カタカナで注目させる。

238

共通言語
投入モデル

松井玲奈の国民力

万人に通用する例を出す。

244

意味拡大
モデル

J・K・ローリングの超訳力

「引用言葉」を拡大解釈する。

249

虚構現実
往復モデル

阿川佐和子の声掛け力

突然、読み手に話しかける。

255

過剰造語
モデル

宮藤官九郎の激化力

盛りまくる。

261

一文はずし
モデル

よしもとばななの意味深力

突然、変なことを言う。

267

二人称語り
かけモデル

山田ズーニーの「対一カ」
当事者意識を持たせる。

271

余韻増幅
モデル

岡本かの子の「言い残し力」
最後の一文を、情景描写で締める。

276

違和感
モデル

ナンシー関の「警告力」
批判は自分のためにしない。

280

白い肌雪の肌
モデル

ビジネス書の「隠喩力」
大人語を「子ども」の気持ちで言い換える。

286

緊張と緩和
モデル

又吉直樹の「かぶせ力」
「真面目」と「脱力」を組み合わせる。

292

あとがき

297

引用・参考文献

300

CHAPTER

1

バズるつかみ

BUZZ RU TSUKAMI

どうすれば、
振り向いて
くれる？



良心的
釣り
モデル

バズるつかみ

しいたけの
誘引力

最初に意味不明な言葉を放り込む。

え？ いまこのコ、なんか変なこと言わなかった？

垂らされた釣り糸には、うっかり、ひっかかっちゃうもの。

映画でもドラマでも漫画でも、しょっぱなに「これはどういう意味……？」って気になる場面があると、ついついそのまま見続けてしまいます。ほら、いきなり手がハサミのキャラクターがいるとか、突然丸くて青いロボットがひきだしから現れるとかすると、「どういうこっちゃん？」と目が離せなくなる。

これ、文章でも一緒だと思うんです。最初になにか「ひっかかり」があると、どうしても続きを読みたくなるんですね！

ここでお手本にしたい文章は、女性に大人気の古い師・しいたけさんの、とある日のブログ。年齢も素性も顔も不明なしいたけさんですが、どっこい、しいたけさんのブログを読むと「なんか親しみやすく、信頼できるひとだなあ……」となぜか心を許してしまうんです。

これって、すごいことじゃないですか？

勝手な持論を展開いたしますが、そもそも「占い」の解説って、ものすごく高い文章力が必要だと思っんです。だって占いて、そもそも……ちょっとあやしいじゃないですか。生まれた日によってあなたの運命が決まるなんて、そんな勝手に私の人生決まっただまるかよ、と反発するのがフツーです（すみません、でも私、わりと信じちゃうんですけど）。

でも、ならばなぜ女性誌に毎月「今月のあなたの運勢☆」が載ってるかっていえば、それはひとえに「占いの文章がめちゃくちゃうまいから」だと思うのです……。〈あなたはいま大変な思いをしてるかもしれないけど、大丈夫、これから運気が上がりますよ〉と語りかければ、全国に存在する何万何十万という読み手が「あ、これ私に向けて書かれてる言葉かも……？」と感ぜせてしまう。（当たるわけないでしょ）と顔をしかめている人も、読めば（もしかしたら当たってるかも……）と無視できない。そんな文章こそリアル占い師の文章。しかも、雑誌などで有名な人気占い師のコラムなんて、超一流の文章なんです、きつと！

そんな占い師しいたけさんの単なる日常ブログにも、その文章力は遺憾なく発揮されておりま

お盆休みに広島県の福山の神石高原（じんせきこうげん）ホテルというところで名越康文先生の合宿に参加してきました。

すごく実り大きな2泊3日になって、改めて、なんで「合宿」というものに参加しようと思っ
たかと言うと、合宿ってポロリが多いんですね。

← ちゃんと説明

カタカナにすること「ひっかかり」↓「なにっ」と思わせる！

ポロリとは何かについて説明したいんですけど、合宿を主催した名越先生って著名人だし、そ
ういう著名人とか教壇の前に立つ方って、想像以上に自分の言動に気を付けているのです。

具体的「ポロリ」の説明！

でも、合宿中とかって「これは教科書とかには載せられないし、大きな声で話したら誤解をさ
れるかも知れないから言えないけど」っていう、ポロリが多い。僕は勝手に、その「ポロリ」が
その人の本筋に根差した、知恵の結晶だと想っているのです。

まとめ わかりやすくして、

ついでに「ぽろり」。すいこ

〜したいだけ。「したいだけのブログ」より

この文章の最大のポイントはどこでしょう。つい目を奪われる箇所はどこかということ。

そうです、「ポロリ」です。しいたけさんは、とある先生の合宿に参加してきました、と切り出し、そのまま合宿における出来事を話すのかと思いきや、突然登場させる言葉が「ポロリ」。(え、なんのこと!?)と読者はドキツとする。だって「合宿でのポロリ」って……なんかこう、やらしい感じがしません!? 気になる。

そこでしいたけさんは、きちんと「ポロリとはなにかについて説明したいんですけど、」……聞こえますか……今、ポロリという言葉が気になったそのあなた、安心してください。ちゃんと今から説明しますから」というふうに、裏メッセージを読み手の心に直接呼びかけるようにして、こっそり伝えてくれます。(なんのこと!?)と最初に戸惑わせておいて、「ちゃんと説明しますね」ってにこっと笑いかける。読者が「ポロリ」でひっかかることをきちんと予測しているわけです。「読み手がひっかかる」↓「書き手がそのひっかかりを取る」このくり返しこそが、占めという、相手が特定できないようなメッセージを、読み手全員に「私に向かって語りかけてくれている……?」と思わせる文章に仕立て上げるのでしょう。すさまじいな。

こんなふうに、先にあえて「刺激的かつ意味不明な言葉」を放り込み、後から「実はこういうこと」とやさしく説明する流れを作ること、読み手をするっと巻き込むことができます。

▼ ● 大事な部分を隠されると、見たくてたまらなくなる。

◀◀ まとめてみた

1、伝えたいことを一文にしてみる。

合宿では、偉い人が、ふだん話せないような重要なことを打ち明けがち。

2、その中で、一番伝えたい部分を伏せ字にする。

合宿では、偉い人が、〈ピー〉しがち。

3、その伏せ字を、いろいろな言い換える。

合宿では、偉い人が、口をすべらせがち・リークしがち・ぶっちゃけがち……など。

4、一番インパクトのある言葉をチョイス。

合宿では、偉い人が、ポロリしがち。